〔文化財伝承等の取組事例〕

「野方小学校の荒佐野棒踊り伝承活動の取組」

１．学校名	大崎町立野方小学校
２．学年・人数	４年から６年（計 39 人）
３．日時・場所	⑴　練習の日時・場所 令和７年 10 月　１日(水)，15 日(水)，23 日(木)　　体育館，校庭 ⑵　発表の日時・場所 令和７年 10 月 25 日(土)　「秋季大運動会」
４．伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について	⑴　名　称 荒佐野棒踊り（あらさのぼうおどり） ⑵　由　来 約 338 年前に摂津・河内・和泉の三国（現在の大阪地方）から荒佐野の地へ移住した人々の子孫が代々伝承してきた。由来については，「農耕儀礼」，「朝鮮出兵の凱旋祝賀」，「防御・攻撃術の踊り化」など諸説あるが，一般的には五穀豊穣や無病息災を祈って踊られることから，荒佐野を開墾した人々が新天地での安泰を祈願して踊るようになったと思われる。 ⑶　構成等 踊りは，６尺棒（木製薙刀）を持った踊り手と３尺棒（木製刀）を持った踊り手が，縦２列に並び，前後４人１組で歌い手の歌う調子に合せながら，威勢のいい掛け声とともに棒を打ち合わせ勇壮に踊られる。
５．文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	連携・協力の『体制』をしっかりさせるために窓口を明確にしている。保存会側は，代表が窓口になり，保存会の会員の協力を取り付けるようにしている。学校側は，全体的には教頭が窓口になっているが，児童の練習計画や指導内容等，詳細の打ち合せは，４～６年の担任が行い，児童が効果的・効率的に棒踊りを学習・練習できるように進めている。
６．取組の様子（練習状況，発表の場等）	 【練習風景】 【運動会での披露】
７．感想・意見 （参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	【６年児童】４年生の頃から棒踊りをして，今年が一番上手に踊れました。６年生になり脚絆まで付けて踊れたことがとてもうれしかったです。みんなで一緒に元気に踊れてよかったです。下学年のみんなには，来年もがんばってほしいです。 【保護者】我が子の棒踊りを見ることができてよかったです。運動会で，多くの人に見ていただき，子供たちの自信につながったと感じました。 【保存会】子供たちが真面目に練習し，早く踊りを覚えてくれることがうれしく思います。指導者も高齢になり，継承者が年々少なくなってきています。教えている子供たちの中から，大人になって継承してくれる人が一人でも多く出てくれることを期待しています。